

語いと英語教育(17)

TEACHER TALK(2)

1994年 2月18日

本研究に携わった研究員

長 勝彦 (墨田区立両国中学校)	野口 弘子 (多摩市立東愛宕中学校)
鬼山由美子 (江戸川区立南葛西中学校)	備里川正人 (足立区立第十四中学校)
原田 博子 (足立区立第十四中学校)	北原 延晃 (杉並区立和田中学校)
日臺 滋之 (杉並区立中瀬中学校)	鶴田 峰子 (台東区立下谷中学校)
二宮 正男 (狛江市立狛江第一中学校)	三浦 邦彦 (足立区立第三中学校)
横山 牧子 (立川市立立川第二中学校)	市川きみ子 (渋谷区立原宿中学校)
吉岡千恵子 (大田区立大森第三中学校)	阿久津仁史 (三鷹市立第四中学校)
米田 隆 (板橋区立板橋第四中学校)	杉本 薫 (墨田区立両国中学校)
滝之入道隆 (中央区立佃中学校)	石井 亨 (墨田区立錦糸中学校)
土居由起子 (足立区立第一中学校)	福井 洋子 (多摩市立豊ヶ丘中学校)
古川 泰子 (北区立桜田中学校)	伊東 一 (足立区立西新井中学校)

(所属校は発表時のものです)

目 次

・	あいさつ	
・	研究経過	
・	TEACHER TALK(2)	
	（ 1 ）本年度の研究に至る過程……………	205
	（ 2 ）本年度の研究過程……………	205
	（ 3 ）機能別発話分析グラフ……………	208
	（ 4 ）Teacher Talk 分析……………	210
	（ 5 ）Teaching Plans	
	（ 6 ）Teacher Talk と言語機能……………	213
	（ 7 ）Teacher Talk の一例（全文掲載）	
	（ 8 ）今後の課題	
・	参考文献	
・	編集後記	

目次は発表時のもので、ページの示されていない項目は、このダイジェスト版では省略されています。

. あいさつ - 省略 -

. 研究経過 - 省略 -

. TEACHER TALK (2)

(1) 本年度の研究に至る過程

『語いと英語教育(10)』では今までの文法・構造中心の授業だけでは真の伝達能力の育成にはつながっていないという反省に立って Communicative Language Teaching を取り上げた。

『語いと英語教育(10)』～『語いと英語教育(14)』では Language Functions (言語機能) と Language Forms (言語形式) を調査・研究してきた。言語機能に応じているいるな場面で適切な言語形式を用いて表現できることがコミュニケーション能力の育成につながると考えた。

『語いと英語教育(12)』と『語いと英語教育(14)』では Language Functions と Language Forms を日常の授業で活用できるように整理した。前者では意志・感情等にかかわる機能、後者では実情報にかかわる機能を取りあげ、各学年で使用可能な言語形式の recommended list を作成した。

『語いと英語教育(15)』では意志・感情等にかかわる機能(意志を伴う機能 感情を伴う機能 相手の行為に影響を与える機能 挨拶等社交上の機能)の言語形式の register (言語の使用域) についての調査・研究をした。Native speakers に対してアンケート調査を行い、それをもとに Formal, Neutral, Informal の list を作成した。

『語いと英語教育(16)』では、授業の各場面で、教師は生徒にどのような言葉を使っているのかを研究した。研究部員の授業を VTR に録画し、Teacher Talk に焦点を当てて表現を拾い出した。

(2) 本年度の研究過程

本年は Teacher Talk についての研究の2年目にあたる。

そこで、Teacher Talk の必要性、及び活用について検討を始めた。

授業者の Speaking ability を伸ばしたり、保持したりするのに役に立つ。

Listening に対する生徒の心理的な Barrier (障害) を取り除くのに役に立つ。

生徒の Listening ability を伸ばす。

語い数(特に受容語い)を増やしたり、教科書の新出単語などを先取りして input することができる。

1年間または3年間などの長期的な見通しを持って、意識的・段階的に input することができる。

日々の体験を通して cross-culture 的なことを理解させることができる。

昨年度は生徒を動かす機能(3.5:人にあることをする/しないように命じる/それに応える)のみをまとめたが、今年度は「語いと英語教育(15)」でまとめた意志・

感情等に関わる機能（1:意志を伴う機能,2:感情を伴う機能,3:相手の行為に影響を与える機能、4:挨拶など社交上の機能）すべての Teacher Talk を集め、検討した。

以下の5つの授業のVTR録画から Teacher Talk に焦点を当て、表現を拾いだした。

授業者	学校名・学年 (研究会名)	授業日	授業形態及び主な言語活動
二宮 正男	狛江市立 狛江第一中 1年 (中英研研究部研究授業)	1992, 2,18	スキット作り～練習～発表 ビデオ再生による評価
北原 延晃	杉並区立 和田中 2年 (中英研研究部研究授業)	1993, 2,18	Listening, Reading を中心 の授業
日臺 滋之	杉並区立 中瀬中 3年 (杉並区立済美研究所 研究授業)	1993, 6,24	Team Teaching による 現在完了形の導入
杉本 薫	墨田区立両国中 1年 (関東甲信地区英語教育 研究協議会研究授業)	1993, 11,5	現在進行形を含むスキットの 練習
石井 亨	墨田区立錦糸中 1年 (関東甲信地区英語教育 研究協議会研究授業)	1993, 11,5	What の疑問文 Group Work

そして、それらを次のような4種類30項目に分類した。

1 **Expressing & finding out intellectual attitudes** 意志を伴う機能

- 1.1 expressing & asking for ideas, opinions, agreement or certainty
考え、意見、同意や確実性について述べる / たずねる
- 1.2 expressing & inquiring about intention or lack of intention
意志の有無を述べる / たずねる
- 1.3 expressing & inquiring about possibility or impossibility
可能性の有無をたずねる / 述べる
- 1.4 expressing & inquiring about ability or inability
能力の有無を述べる / たずねる
- 1.5 expressing & inquiring about obligation or absence of obligation
義務の有無を述べる / たずねる

1.6 seeking, giving & withholding permission

許可を求める / 与える / 留保する

1.7 offering to do something & reacting to it

何かをするように申し出る / それに応える

1.8 offering something & reacting to it

何かを差し出す / それに応える

2 Expressing & finding out emotional attitudes 感情を伴う機能

2.1 expressing & inquiring about liking, disliking, interest or lack of

interest 好き嫌い / 興味の有無について述べる / たずねる

2.2 expressing pleasure, displeasure, satisfaction or dissatisfaction

喜び / 不快 / 満足 / 不満足を述べる

2.3 expressing compliments, praises, approval, appreciation or admiration

賛辞 / 称賛 / 同意 / 理解 / 尊敬を述べる

2.4 expressing & inquiring about desire or lack of desire

希望の有無について述べる / たずねる

2.5 expressing & responding to apology

謝罪する / それに応える

2.6 expressing & responding to gratitude

感謝する / それに応える

2.7 expressing sympathy or carefulness

同情や心配を述べる

2.8 expressing feelings

気分を述べる

2.9 expressing anxiety

不安を述べる

2.10 expressing embarrassment

当惑を述べる

2.11 expressing surprise

驚きを述べる

3 Getting things done 相手の行為に影響を与える機能

3.1 making suggestions & reacting to it

提案をする / それに応える

- 3.2 requesting others to do or not to do something & reacting to it
人にあることをする / しないように依頼する / それに応える
- 3.3 inviting others to do something & reacting to it
人にあることをするように誘う / それに応える
- 3.4 advising others to do or not to do something & reacting to it
人にあることをする / しないように忠告する / それに応える
- 3.5 directing others to do or not to do something & reacting to it
人にあることをする / しないように命じる / それに応える

4 Socializing 挨拶など社交上の機能

- 4.1 greeting people あいさつ
- 4.2 leave taking 別れのあいさつ
- 4.3 introducing oneself & others 紹介
- 4.4 attracting attention 気を引く
- 4.5 congratulating 祝う
- 4.6 telephone formulas 電話の決まり文句

(3) 機能別発話分析グラフ

機能別発話分析表

	北 原		日 台		杉 本		石 井		二 宮		合 計	
1. 1	17	8.2%	19	4.7%	3	1.3%	0		2	2.2%	41	3.6%
1. 2	16	7.7%	20	5.0%	8	3.3%	5	2.4%	5	5.4%	54	4.7%
1. 5	1	0.5%	0		0		0		0		1	0.1%
1. 6	14	6.7%	6	1.5%	7	2.9%	8	3.8%	0		35	3.0%
1. 8	1	0.5%	2	0.5%	0		0		0		3	0.3%
2. 1	1	0.5%	0		10	4.2%	5	2.4%	0		16	1.4%
2. 2	1	0.5%	6	1.5%	5	2.1%	0		0		12	1.0%
2. 3	27	3.0%	48	11.9	17	7.1%	9	4.3%	18	19.4	119	10.3
2. 4	0		8	2.0%	0		15	7.2%	1	1.1%	24	2.1%
2. 5	5	2.4%	8	2.0%	1	0.4%	2	1.0%	1	1.1%	17	1.5%
2. 6	2	1.0%	16	4.0%	2	0.8%	2	1.0%	1	1.1%	23	2.0%
2. 7	3	1.4%	1	0.2%	3	1.3%	1	0.5%	0		8	0.7%
2. 8	1	0.5%	0		0		4	1.9%	0		5	0.4%
2. 9	1	0.5%	0		0		0		0		1	0.1%
2.10	5	2.4%	4	1.0%	1	0.4%	0		0		10	0.9%
2.11	3	1.4%	1	0.2%	1	0.4%	1	0.5%	1	1.1%	7	0.6%
3. 1	7	3.4%	9	2.2%	3	1.3%	0		4	4.3%	23	2.0%
3. 2	3	1.4%	76	18.8	0		0		0		79	6.9%
3. 3	4	1.9%	0		8	3.3%	5	2.4%	2	2.2%	19	1.7%
3. 4	3	1.4%	4	1.0%	4	1.7%	5	2.4%	3	3.2%	19	1.7%
3. 5	81	38.9	58	39.1	59	66.3	39	66.5	39	41.9	576	49.7
4. 1	2	1.0%	5	1.2%	3	1.3%	4	1.9%	8	8.6%	22	1.9%
4. 2	1	0.5%	3	0.7%	1	0.4%	2	1.0%	2	2.2%	9	0.8%
4. 3	8	3.8%	10	2.5%	4	1.7%	0		4	4.3%	26	2.3%
4. 5	1	0.5%	0		0		2	1.0%	2	2.2%	5	0.4%
合 計	208		404		240		209		93		1154	

(4) Teacher Talk 分析

分析にあたって留意したこと

データ分析については集計の方法、分類の方法など試行錯誤をくり返すこととなったが、次のような点に特に留意して、分析を進めることとした。

- a. データ分析は「意思を伴う機能・感情を伴う機能・相手の行為に影響を与える機能・挨拶等社交上の機能」(5 ~ 7 ページ参照) をもとに行った。
- b. 分類を行うにあたり、明らかに生徒に対する指示・命令として使われている “ Let's ~ ” という表現は、本来 LANGUAGE FORM 上は [3.3 inviting others to do something & reacting to it (人にあることをするように誘う / それに応える)] に分類されるべきものだが、FUNCTION を優先して [3.5 directing others to do or not to do something & reacting to it (人にあることをする / しないように命じる / それに応える)] に分類した。
- c. “ O.K. ” “ All right. ” “ (Are you) Ready ? ” についてはどの授業でもかなり多用されており、言語機能上は教師の指示や発言の「確認」を意図しているのだが、今回の分類表には該当するものが見当たらないため、分析の対象からはずした。
- d. 同じ発言(同じ文)をくり返して続けて言っている場合は、1回と数えた。
- e. 記録ビデオの録音音声の関係で、机間指導中個々の生徒に対して行った小さな声での発話は拾いきれていないものがある。
- f. 生徒の呼名のみはカウントしていない。

今回の調査における TEACHER TALK についての分析(全体的な傾向として)

- a. 全体を通じて圧倒的に多いのが [3.5 directing others to do or not to do something & reacting to it (人にあることをする / しないように命じる / それに応える)] である。このことは一斉授業の中での生徒に対する指示・命令であるから当然の結果だろうが、頻度については授業形態・内容・指導段階などに深く関連があるであろうと推測できる。またこの機能は授業中生徒がもっとも頻繁に耳にしているという事実から、今後の研究の余地は大きいと思われる。
- b. 次に多いのは [2.3 expressing compliments, praises, approval, appreciation or admiration (賛辞 / 称賛 / 同意 / 理解 / 尊敬を述べる)] に分類された発話である。
授業では、主に指導の結果に対する評価としてとらえることができる。生徒の意欲を引き出す大きな要因であることを考えると、頻度と表現の多様化については今後の重要な研究課題の一つである。

c. その他のデータについては顕著な傾向は認められないが、授業によって [2.1 expressing & inquiring about liking, disliking, interest, or lack of interest (好き嫌い / 興味の有無について述べる / 尋ねる)] と [2.2 expressing pleasure, displeasure, satisfaction, or dissatisfaction (喜び / 不快 / 満足 / 不満足を述べる)] の2点が多くなっている。これは授業の内容・話題によって生徒との interaction の中で多用されているためである。

このように授業の形態、内容、話題、指導方法などにより TEACHER TALK を意識的に活用することも可能である。また、どの授業においても少ない機能については、それらの使用場面について、さらに深く研究する必要がある。

今回の調査における TEACHER TALK についての分析 (個々の授業について)

授業 1 (二宮... 1年生 3学期)

ゼロの機能数 11

全体の発話数に対する指示・命令 [3.5] の割合 42%

ほめ言葉 [2.3] の割合 20%

- ・生徒の活動・作業が多い授業のため教師の発話数は少ない。
- ・生徒の発表の機会が多い授業なので [2.3 Expressing compliments, praises, approval, appreciation or admiration (賛辞 / 称賛 / 同意 / 理解 / 尊敬を述べる)] が多くなっている。

授業 2 (北原... 2年生 3学期)

ゼロの機能数 2

全体の発話数に対する指示・命令 [3.5] の割合 39%

ほめ言葉 [2.3] の割合 13%

- ・ [1.6 seeking, giving, & withholding permission (許可を求める / 与える / 留保する)] が多いのは生徒の到達度に応じた課題を多く用意し、活動の幅を広げたためである。
- ・ [1.1 expressing & asking for ideas, opinions, agreement, or certainty (考え、意見、同意や確実性について述べる / 尋ねる)] と [1.2 expressing & inquiring about intention or lack of intention (意思の有無を述べる / 尋ねる)] が多いのは生徒の活動する内容が多種にわたっているためである。

授業 3 (日台... 3年生 1学期)

ゼロの機能数 7

全体の発話数に対する指示・命令 [3.5] の割合 38%

ほめ言葉 [2.3] の割合 12%

-
- ・ ALT(Assistant language Teacher)との TEAM TEACHING であるため、発話数が非常に多くなっている。
 - ・ [3.2 requesting others to do or not to do something & reacting to it (人にあることをする / しないように依頼する / それに応える)] および [2.6 expressing & responding gratitude (感謝する / それに応える)] の使用頻度が高い。これは JT と ALT との間で発せられたものであるが、生徒に聞かせるように意図されたものである。
 - ・ [1.8 offering something & reacting to it (何かを差し出す / それに応える)] は頻度は低いが、他の人にはない機能である。生徒へのプリント配布時に意図的に使うように工夫された結果、現れたものである。

授業 4 (杉本... 1年生 2学期)

ゼロの機能数 8

全体の発話数に対する指示・命令 [3.5] の割合 66%

ほめ言葉 [2.3] の割合 7%

-
- ・ [2.1 expressing & inquiring about liking, disliking, interest, or lack of interest (好き嫌い / 興味の有無について述べる / 尋ねる)] が多いのは全体分析でも指摘した通り授業の内容・話題に深く関わっているためである。
 - ・ 一斉授業の形態がほとんどであるため、指示・命令の割合が高い。

授業 5 (石井... 1年生 2学期)

ゼロの機能数 10

全体の発話数に対する指示・命令 [3.5] の割合 66%

ほめ言葉 [2.3] の割合 4%

-
- ・ [2.2 expressing pleasure, displeasure, satisfaction, or dissatisfaction (喜び / 不快 / 満足 / 不満足を述べる)] が多いのは全体分析でも指摘した通り授業の内容・話題に深く関わっているためである。
 - ・ 指示・命令の割合が高いのは、生徒の活動の段階を一つずつ区切りながら指導しているためである。

(5) Teaching Plans - 省略 -

(6) Teacher Talk と言語機能 杉並区立和田中学校 北原延晃教諭の例

Procedure	生徒の動き	教師の働きかけ	機能
1. Greeting	立ち上がる。 座る。	挨拶する。 着席させる。	4(1) 3(5)
2. Casual Conversation	手を挙げる。	スキー教室の話題について質問する。 挙手させる。	2(3) 2(7)
3. Bingo	手を挙げる。	ピンゴをやるかと誘う。 大きな声で、と言う。 ピンゴ完成本数を問う。 たくさんできた生徒をほめる	3(1) 3(5) 3(2) 2(3)
4. Karaoke	歌う。	歌おうと呼びかける。 歌ったことに感謝する。	3(3) 2(6)
5. Paced Reading	テープに合わせて音読する。	もう一度やろうと言う。	1(1) 3(5)
6. Shadowing	本を見ないでテープを聞いてすぐ言う。	本を見てもよいができるだけ見ないでやるように言う。	1(6) 3(5)
7. Role-Play	机を移動してペアを作りロールプレイを始める。	ペアを作らせる。 役割分担をさせる。席を替わらせる。 本を見ないよう指示する。机を戻させる。	3(5)
8. Top Down Listening	先生の話聞く。 テープを聞く。	教科書を開かないように指示する ワークシートを配り忘れたことに気がつく。 テープを聞かせようとする。 (テープレコーダーが動かなかったので動揺する。) 聞き取り上の注意をする。 テープを聞かせる。	1(2) 3(5) 2(5) 1(5) 2(11) 2(10) 2(9) 3(5) 1(1)

	<p>何語か推量する。 答える。 聞こえた単語に をつける。 絵を並べ替える。 立つ。 座る。</p>	<p>意図的に韓国語のテープを流し、生徒の反応を見る。) 何語のテープか考えさせる。 何語か、問う。 英語のテープを聞かせる。 並べ替えができた生徒から立たせる。座らせる。</p>	<p>4(4) 2(3) 1(2) 2(5) 1(6)</p>
<p>9. 犯人は誰だゲーム</p>	<p>答える。 小グループに分かれる。 答を言う。 捜査班長を決める。 捜査班長は前に出てプリントをもらう。 班員は情報収集をする。 班長は前に出て犯人のヒントを聞く。 班員は集めた情報を班長に報告する。 班長は必要な情報のみ受け入れ、ヒントをもとに犯人を割り出す。 班長は犯人を報告書にまとめて教師に提出する。</p>	<p>ゲームをやろうかと聞く。 グループを作らせる。 Q 2 の答合わせを忘れたので謝る Q 2 の答合わせをする。 捜査班長を決めさせる。 捜査班長にプリントを渡す。 ゲームの注意をする。 班長を集めてヒントを与える 報告書をチェックする。 トップのグループを祝福する</p>	<p>2(7) 2(11) 1(2) 2(5) 2(10) 3(5) 1(8) 2(6) 2(3) 3(4) 1(6) 4(4) 4(5)</p>
<p>10. Assignment</p>	<p>聞く。</p>	<p>宿題と次時の予告をする。</p>	<p>1(2) 3(5)</p>
<p>11. Greeting</p>	<p>挨拶する。</p>	<p>後に A E T のホール先生がいることをおしえる。 挨拶する。</p>	<p>2(3) 1(2) 4(2)</p>